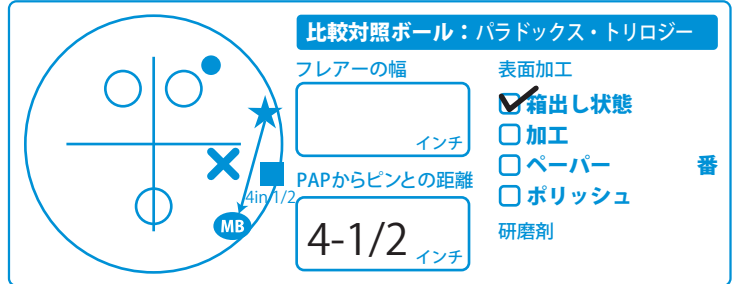
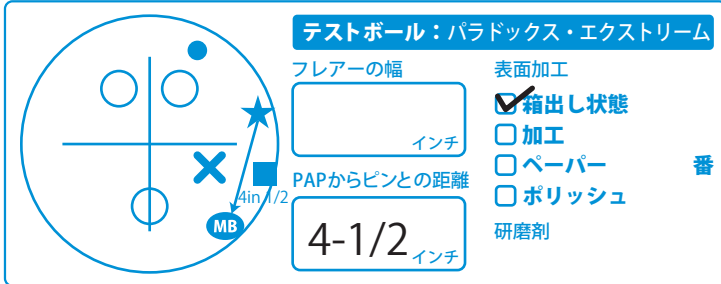


ボールの特性レポート

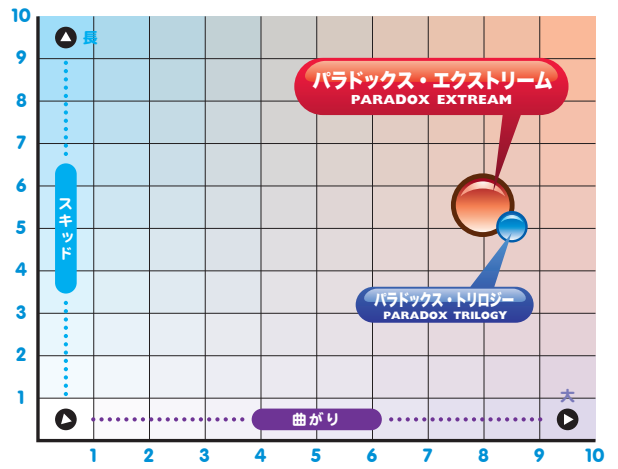
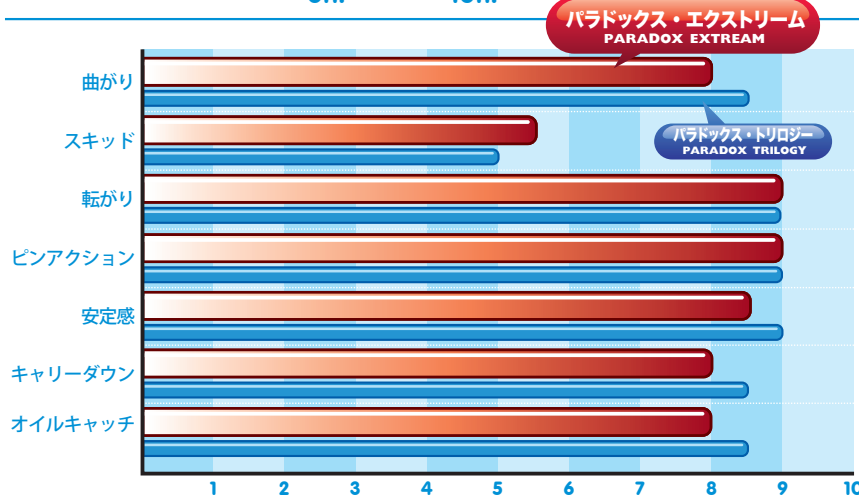
BALL REPORT



ボール名 パラドックス・エクストリーム	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.480	△RG 0.057	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

日本人の求める”走り”と”キレ”と”曲がり続ける強さ”を極限まで引き出した”ABS完全監修”の日本限定モデルでプロ・アマ問わず多くのボウラーを魅了したPARADOX RED PEARL。そして昨年9月にPARADOX TRILOGYが発売されPARADOXシリーズは完結しました。PARADOX完結後、ABSボール開発チームは以前からダイナミックなモーションポテンシャルで様々なカバーストックでポテンシャルが発揮できるI-Core2.0(Middle Heavy)Coreに焦点をあて開発を進めてきました。「米国で発売するボール以外で、日本が求めるパフォーマンスとはなにか」。純粋にコアのポテンシャルとカバーストックを合わせ、私達が納得するボールとは何なのか。その答えを日本で数量限定でこのPARADOX EXTREMEを発売します。

大きくネジれることのできるコアをどのように、どのような形で性能として表すのか。曲がるというイメージの中にもしっかりとスキッドを感じさせながら曲がり始めの安定感とともにピンヒットまでしっかりと曲がる軌跡。”EXTREME”というネーミングに見合うHookからRoll期における反応良いBackendモーション。すべてが日本のボウラーの為にあります。

今まで発売されたPARADOX シリーズの中で”一番走り、一番キレル”これがPARADOX EXTREMEの第一印象です。柔軟性の高いSSFカバーストックでもRED PEARLやTRILOGYよりも強くし、今までにないHighポリッシュを施してスキッドを作っています。比較投球してみると、私の感覚ではカバーストックはEXTREMEのほうが強いのにTRILOGYのほうが曲がり始めが早く感じます。そこからMid Laneを越えたあたりから明らかに二つのボールの動きは異なり、緩やかな軌道を描き続けるTRILOGYとそこから加速的な曲りを感じるEXTREMEとの差を感じることができました。コアの持つポテンシャルを最大限Backendに転換させる。それこそがPARADOX EXTREMEの神髄だと思います。

特記事項

強いSSFカバーストックをHighポリッシュさせることで、スキッドとドライゾーンでの急激な摩擦を作ります。ABS×EBIの共同開発によってパラドックスシリーズの中では一番走り、一番キレルボールに仕上がっています。